

資料 1 ロールプレイ「おもちゃのとりあい」シート

【資料】 ロールプレイ「おもちゃのとりあい」シート

役割

・子ども A・子ども B・保護者 A・保護者 B

場面設定

子ども A：おもちゃで遊んでいる

子ども B：おもちゃをとりあげる

子ども A：泣く

保護者 B：「何やってるん！取ったらあかんでしょ！ 返しなさい！すいません」
と言って子ども Aにおもちゃを渡す

子ども B：泣く

保護者 A：「いいよ、いいよ！ Aはこのおもちゃで遊ぶから」と言って
AからおもちゃをとりあげてBに渡す。

子ども A：泣く

キ リ ト リ

資料 2 エッセイ：おもちゃのとりあい

エッセイ：おもちゃのとりあい

おもちゃのとりあいって、いろんな場面があってドキドキします。子どもだけの場面でとりあっていたら、それぞれの気持ちを大切に聴いていだけで、子どもどうして解決していくような気がします。それなのに、おとながそばにいるとつい、子どもに「使いたいのか」とか「あとで貸してもらおうか」とか言ってしまいます。どちら側に寄り添うこともできず、実況中継風に気持ちを代弁しながら、傷つけあうことを避けようと間に入ったりします。そんなとき、子どもたちは、自分の気持ちとは違うところで納得させられているのかもしれない。そのことにかかわったおとなも、アドバイスされた子どもも、気持ちにフィットしないことが多いようで、知らない間に気持ちを傷つけてしまう場合もあります。ほんとうは、おとなも子どももそんな気持ちを聴きあう場であつたらと思います。おもちゃのとりあい=大変！というよりも、そこで感じた気持ちを大切にすることで、なんだかうまくつながっていけるような気がしています。

出典：『子育て温泉～新しい子育て・子育て支援』（社）子ども情報研究センター 双葉堂 2011年